

学び、あいさつ、無言清掃を通したネットワーク

～小中3部会による取組の実践を通して～

【宇部市 桃山中学校区】

地域の概要

桃山中学校区は、宇部市の市街地である新川地区と住宅や団地を中心とする小羽山地区からなっています。新川、小羽山いずれの地区も地域の行事が盛んで、地域の方々は学校の活動に対して理解があり、協力的です。学校・家庭・地域のつながりも、近年特に広がりを見せています。

人口	14,800人	
世帯数	7,132世帯	
対象校及び児童生徒数	桃山中学校	348人
	新川小学校	405人
	小羽山小学校	342人

組織の内容

1 中学校2小学校からなる本校区では、平成26年度、小中が共通して指導に力を入れている学習、あいさつ、掃除を中心課題とする3部会を立ち上げました。

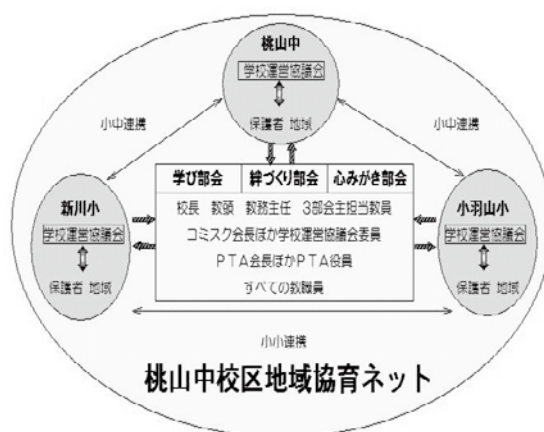
3部会にはそれぞれの学校に実務者（主担当教員）を置き、教頭がコーディネーターとして連絡調整にあたり、推進会議（校長、教務を含む）の承認を経て、様々な取組を進めてきました。

平成27年度は、「地域協育ネット」としての機能を強化し、より実効性を高めるために、校務分掌やPTA、学校運営協議会の組織を、小中共に3部会に改編しました。

学び部会・・・学力向上を中心課題とし、学習規律や授業改善を図る。

絆づくり部会きずな・・・あいさつの活性化を中心課題とし、人と人、学校と地域きずなの絆を深める。

心みがき部会・・・無言清掃への取組を中心課題とし、豊かな心を育成する。



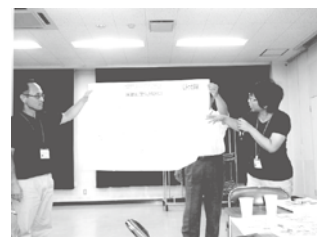
特色・重点的な取組

小中連携を柱に、それぞれの学校運営協議会が関わりをもちながら、地域全体で児童生徒の学びや健全な育成を図る取組を実践しています。

小中連携では、新川小、小羽山小6年生が中学校に出向き、中学2年生と一緒に授業を受ける交流授業を実施しました。学び部会では小中共通の学習規律づくり、絆づくり部会では中学生が小学校正門きずなに立ってのあいさつ運動、心みがき部会ではそれぞれの学校の無言清掃の紹介等を行いました。さらに、学習、あいさつ、掃除の現状と課題を把握し、新たなアクションにつなげるために、小中共通の質問項目によるアンケートを実施しました。アンケート結果は小中の発達の段階ごとにまとめ、部会別に分析し、来年度の重点的取組を検討していくことにしています。

学校運営協議会や地域との連携では、小中合同研修会を開催し、教員、PTA役員、学校運営協議会委員が3部会に分かれユニット型研修を実施し、それぞれのテーマである学習、あいさつ、掃除の活性化に向けて熟議をしました。また、小中連携やコミュニティ・スクールの先進校から講師を招へいし、先進的な取組をすべての教員と保護者、地域の代表が共有する場を設けました。

さらに、様々な取組の様子については、小中連携だよりやコミュニティ・スクールだより、学校ウェブページ等により保護者や地域に発信しています。



熟議での発表

主な活動の紹介

桃山中校区では、3部会の活動を中核にしながら「地域協育ネット」を展開していますが、それぞれの小中学校ではコミュニティ・スクールとして、地域貢献や学校支援の活動を積極的に実施しています。

【桃山中】

地域貢献を進めるために、「**ハッピー桃太郎プロジェクト**」を立ち上げました。ボランティアで募集した生徒が、地域の清掃活動や祭りの準備、片付け、あいさつ運動等に参加しています。この運動を推進するために学校のマスコットキャラクターを生徒に公募し、207点の応募から「**ハッピー桃太郎**」が誕生しました。ハッピー桃太郎は、のぼり旗やシールとなり、様々な場面で生徒を応援しています。



ハッピー桃太郎



地域の清掃活動

【新川小】

新校舎完成に伴い、新しくなった図書館及び図書館内の読み語りスペースの名称を児童・保護者に募集し、図書館を「**新メタセコイヤ図書館**」、読み語りスペースを「**ひだまり**」と名付けました。また、図書管理のバーコード化作業の協力を保護者、地域の方々に募ったところ、約30名の方々の支援が得られ、整備も大幅に早まりそうです。子どもたちは、整った環境の中で存分に本に親しみ、課題であった読書量の少なさも改善に向かっていきます。



バーコード化作業

【小羽山小】

創立35周年を迎え、校舎のあちこちで老朽化が目立つようになりました。そこで、学校と保護者、地域の方々が力を合わせ、明るく元気の出る環境をつくるため、「**学校を明るくするプロジェクト**」を立ち上げました。夏にはおやじの会が中心となり、「**イルカ池リニューアル大作戦**」を実施し、児童と協力して、池の大掃除とペンキ塗りを行いました。



イルカ池のリニューアル

成果と課題

小中合同の研修会や拡大大学校運営委員会を実施することにより、教職員や保護者、学校運営協議会委員の意識が高まり、新しいアイデアや取組が、次から次へと生まれてくるようになりました。また、地域の方々からは、「児童生徒がよくあいさつをする。」、「学校がよく協力してくれる。」という言葉をいただくことも多くなりました。無言清掃への取組は、小中共通の誇りになりつつあります。

一方、小中合同の拡大運営協議会やその場での熟議を単発的なものにせず、継続的に実施していくことで、取組に深まりをもたせていくことが求められています。また、各小中学校では、部会ごとの熟議を活性化させ、小中合同の部会別協議につなげていくことで、さらに教職員の参画意識を高め、発展的な取組を構築していくことが大切になっています。

今後の取組

今後も3部会による活動を基軸とし、小中学校ごとにコミュニティ・スクールとしての機能を充実させていきます。中学校では、学習支援や施設開放等により、学校を生徒と地域の方々のふれあいの場にしていきます。さらに職場体験学習における受入れ事業所を地域に求め、地域全体で生徒を育てる環境づくりを進めていきます。小学校では、ICT研修の場を地域に広げる等の地域貢献や、学校を起点とする保護者と地域の関係づくりを進め、小小連携を活性化していきます。小中学校とも取組を立ち上げてからの期間が短いため、様々な取組の検証改善を図っていくことにしています。